

年頭のあいさつ

代表理事組合長 中條 秀二

組合員をはじめ地域の皆さまにおかれましては、令和になって初めての新年をつつがなくお迎えのこととお慶び申し上げます。

我が国の経済は、雇用・所得環境の改善を進める中で、緩やかな回復基調になることが期待されていますが、米中貿易交渉をはじめとする通商問題を巡る緊張の増大等により、国内景気への影響が懸念されています。

農業面では、全国及び本県での集中豪雨や度重なる台風襲来など、自然災害が多発し、農産物や農業関連施設に大きな被害が出るなど、農家・組合員への影響は深刻なものとなりました。

また、TPPや日EU・EPAの発効に続き、昨年4月からは日米貿易交渉も開始され、本格的な農業の国際化が始まっています。特に、10月に協定の署名がなされた日米貿易交渉は、臨時国会で批准がなされました。今後、政府・与党に対し国内対策の充実強化を徹底するよう断固として求めてまいります。

ところで、2022年開催の第12回鹿児島全共に向けた交配が昨年12月から開始されたことを受け、あいら地域全共出品対策協議会の活動は関係機関が一体となって、出品対策の活動に拍車がかかると思います。

さらに、2019年全国茶品評会において霧島市が3年連続「産地賞」を受賞、個人部門でもJAあいら管内の生産者3名が1位から5位までに入賞することができました。これからも霧島茶のブランド化に向けた取組みを進めてまいります。

次に、農協改革については、昨年5月末をもって農協改革集中推進期間が終了し、農水省からはJAの自己改革について一定の評価を受けました。JAあいらでも、地域に無くてはならないJAになるために「第10次中期3か年計画」の初年度として、商工会議所・商工会との事業連携の実施、組合員・認定農業者と語る会の継続、買取り販売の拡大など、さまざまな取組みを強化してまいりましたが、自己改革に終わりはありません。今後も「変えるべきは変える、変わるべきは自ら変わる」とする自己改革の実践を進めていきます。

一方、内部管理体制において、報道にあったような不祥事が発生し、組合員・利用者の皆様の信頼を損なうこととなり、衷心よりお詫び申し上げます。役職員一同、今回のことを厳粛に受け止め、再発防止策を早期に確立させ、内部管理の強化とコンプライアンス教育を徹底しながら信頼回復に取り組んでまいります。皆様方の深いご理解とご支援・ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

最後に、2020年が皆様にとって幸多い年となられますことをご祈念申し上げ、年頭に当たってのご挨拶といたします。